

若者の災害発生時の避難行動意図に関する研究

影山星七

指導教員 三船恒裕

研究背景

日本は地震や津波などの自然災害が多発する災害大国であり、災害発生時に迅速かつ適切な避難行動をとることが被害軽減のために重要である。しかし、避難の必要性が認識されていても、実際には避難行動が取られない事例も多く報告されている。特に大学生を含む若年層は災害経験が少なく、避難行動に対する意識や判断基準が十分に形成されていない可能性がある。これまでの研究では、避難行動に影響を与える要因としてリスク認知や規範意識などが指摘されてきたが、災害時のメッセージ内容が心理要因や避難意図にどのような影響を及ぼすのかについては、十分に検討されていない。

研究目的

本研究の目的は、計画行動理論を枠組みとして、大学生の災害時避難行動意図に影響を及ぼす心理要因を明らかにするとともに、異なる内容のメッセージ提示がこれらの心理要因および避難意図に与える影響を検討することである。

研究方法

大学生計 154 名を対象に質問紙調査を実施し、避難意図および「リスク認知」「効果評価」「実行可能性」「主観的規範」「記述的規範」「コスト」に関する項目を測定した。分析には HAD (清水, 2016) を用い、因子分析により心理要因の構造を検討した。さらに、各メッセージ条件による心理要因の差を検討するため分散分析を行い、避難意図に影響を及ぼす要因を明らかにするため重回帰分析を実施した。

分析結果

因子分析の結果、最終的に「避難の安全性評価 (効果評価・実行可能性)」「リスク認知」「主観的規範」「記述的規範」「コスト」の 5 因子構造が抽出された。分散分析では、メッセージ条件間で心理要因に大きな差は認められなかった。重回帰分析の結果、効果評価は避難意図に正の影響を及ぼし、規範要因は負の影響を及ぼすことが示された。

考察・結論

本研究の結果から、大学生の避難意図に関連する要因として、災害の危険性や周囲の行動に関する認知よりも、避難行動の有効性や安全性に関する評価が強く関連している可能性が示唆された。本研究は、若年層を対象とした防災啓発において、効果評価を重視した情報提供の必要性を示す点で意義を有すると考えられる。